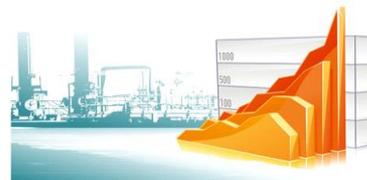


ぎふ経済レポート



令和2年6月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは 6月24日～26日を中心に実施し、7月16日に作成。

景気動向

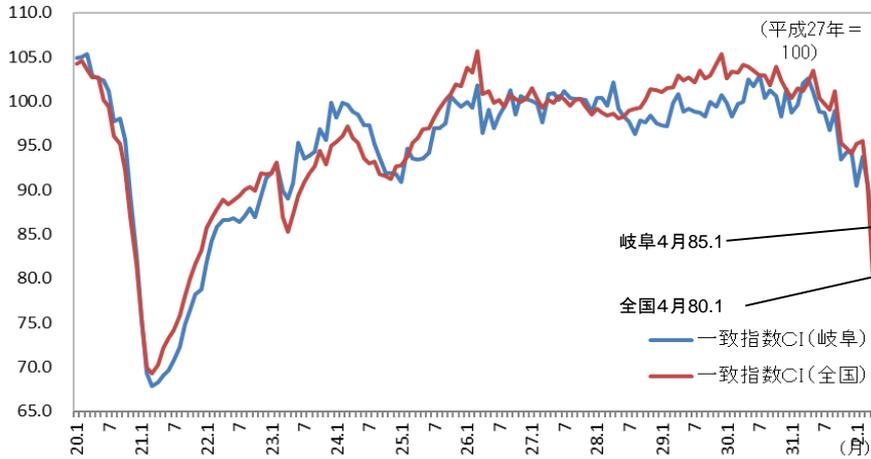
○4月の景気動向指数(一致指数)は、85.1で前月比▲5.5ポイント低下した。

○5月の県内中小企業の景況感は、▲83で前月比▲6ポイントと低下した。

○4-6月の景況DIは、製造業で▲11.3ポイント、非製造業で▲26.9ポイント低下した。

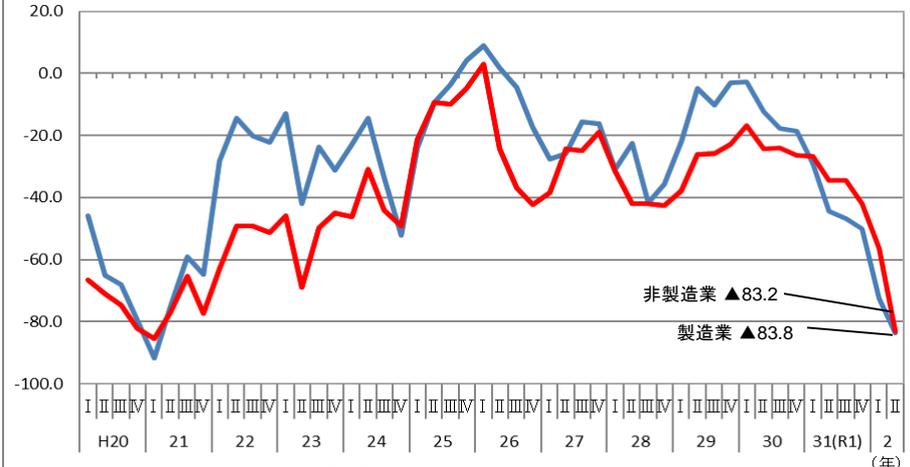
○同売上高DIは、製造業で▲18.7ポイント、非製造業で▲32.1ポイント低下した。

岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移



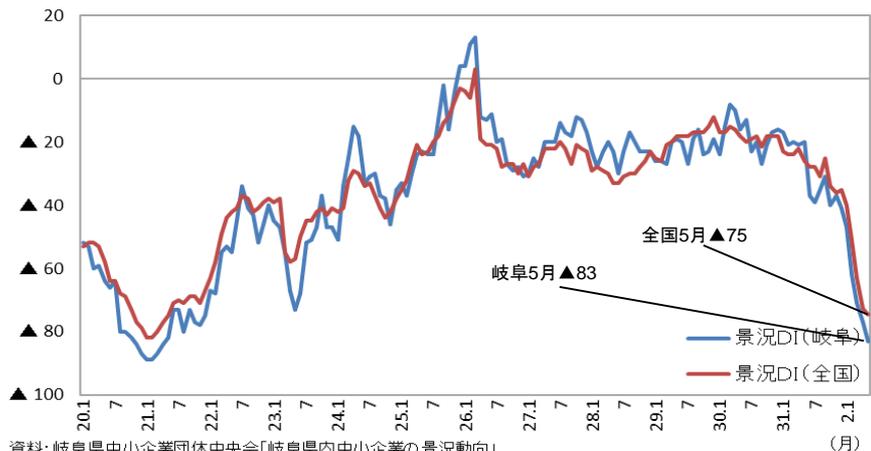
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



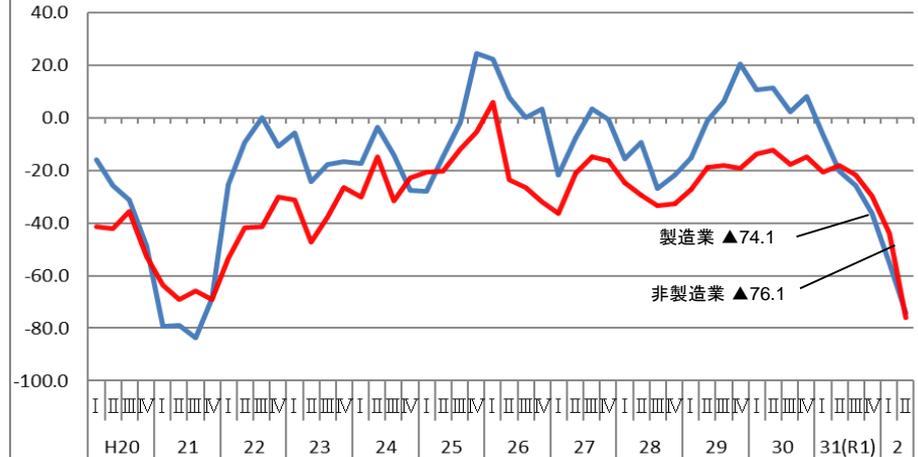
資料: (公財)産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」、
全国中小企業団体中央会「中小企業月次景況調査」

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



資料: (公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

製造業

- 4月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、95.9で前月比▲4.3%と低下した。
- 前月比では、化学工業、電気機械、家具を除き多くの産業で低下した。

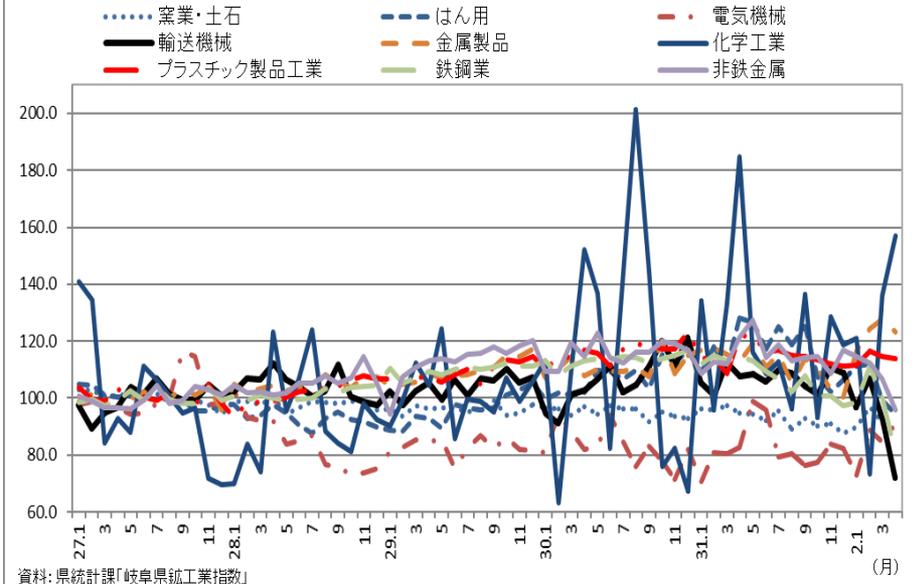
- 4月の主な産業の指数は、化学工業で前月比15.5%と増加したが、輸送機械で同▲22.1%、鉄鋼業で同▲19.7%、非鉄金属で同▲9.9%となるなど、低下する産業が目立った。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



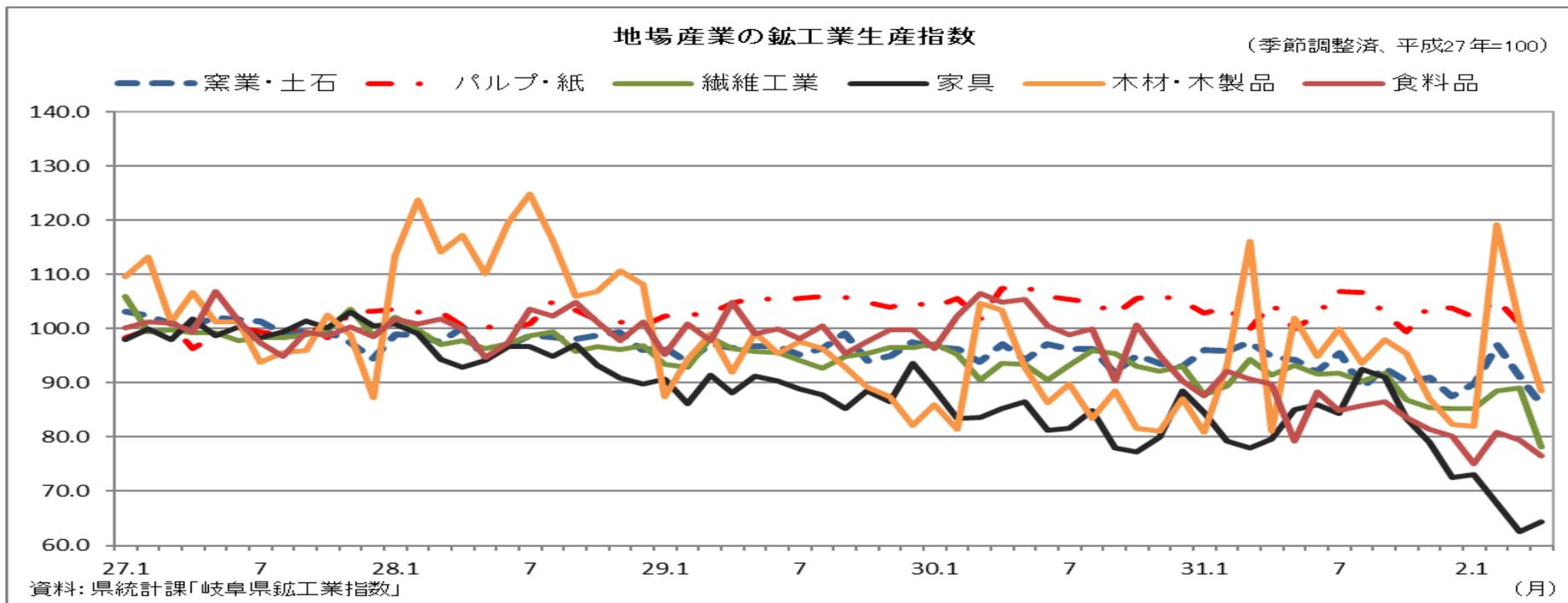
現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆原材料や部品の遅れによる生産への影響は発生していない。(輸送用機械)
- ◆6月が業況の底であると認識しており、7月以降徐々に回復する見通し。(輸送用機械)
- ◆中国の工場の稼働は、6月になって戻ってきている。(非鉄金属)
- ◆中国では、通常どおり操業している。全従業員が出勤しており、生産調整は行っていない。(生産用機械)
- ◆売上は国内外問わず落ちている。特に自動車関連が顕著である。(生産用機械)
- ◆石炭の需要減少により、売上が減少している。(はん用機械器具)

製造業-2

○4月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、家具で前月比2.9%上昇したものの、繊維工業と木材・木製品で同▲12.2%、窯業・土石で同▲6.0%、食料品で同▲3.8%、パルプ・紙で同▲0.8%と低下するなど、多くの産業で低下した。



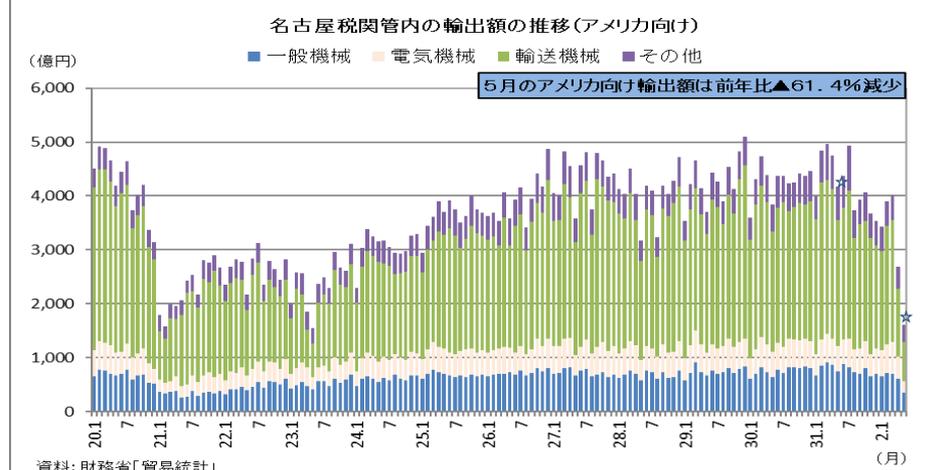
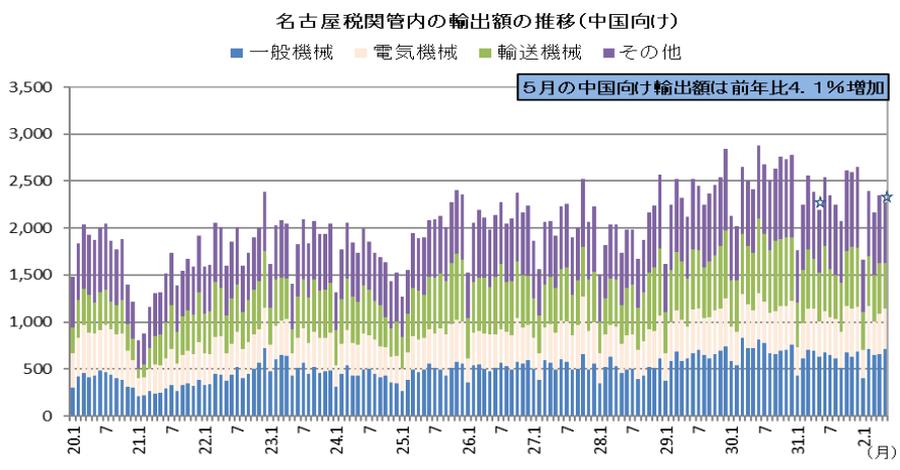
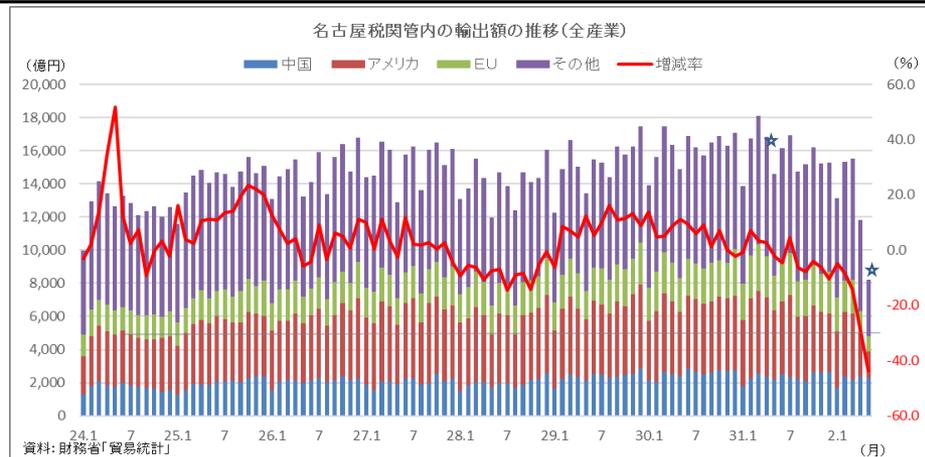
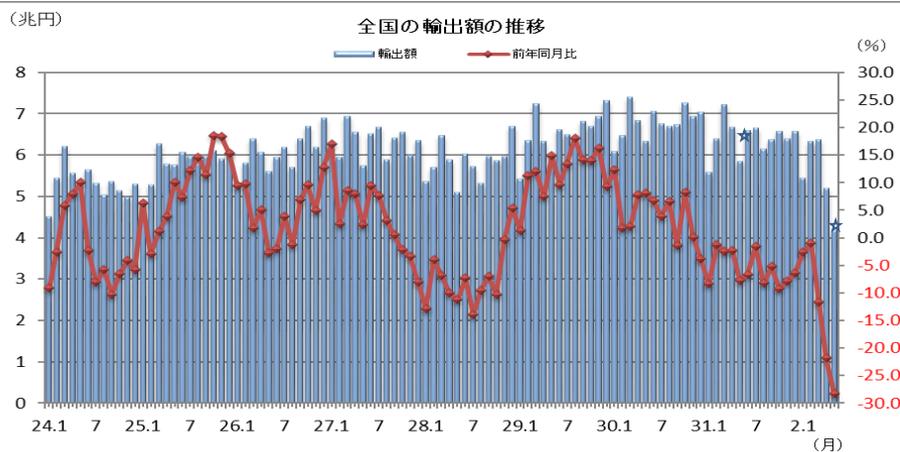
(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

現場の動き

- ◆例年に比べ、売上が3割ほどに落ち込んでいる。生地の製造を控えている。今後に向け、秋のイベントなど、販促イベントを準備し始めている。(繊維)
- ◆輸出の多い企業よりも、国内贈答用の商品を扱う企業のほうが影響が大きいと思われる。(窯業)
- ◆一般消費者向けの商品は回復の兆しがあるものの、業務用の商品は動きが鈍い。(窯業)
- ◆受注が増え、売上也回復してきた。緊急事態宣言の解除による影響はかなり大きい。(家具)
- ◆原料価格は今のところ大きな変動はないが、エネルギーコストは若干値上がり傾向にある。(食料品)

輸 出(名古屋税関管内)

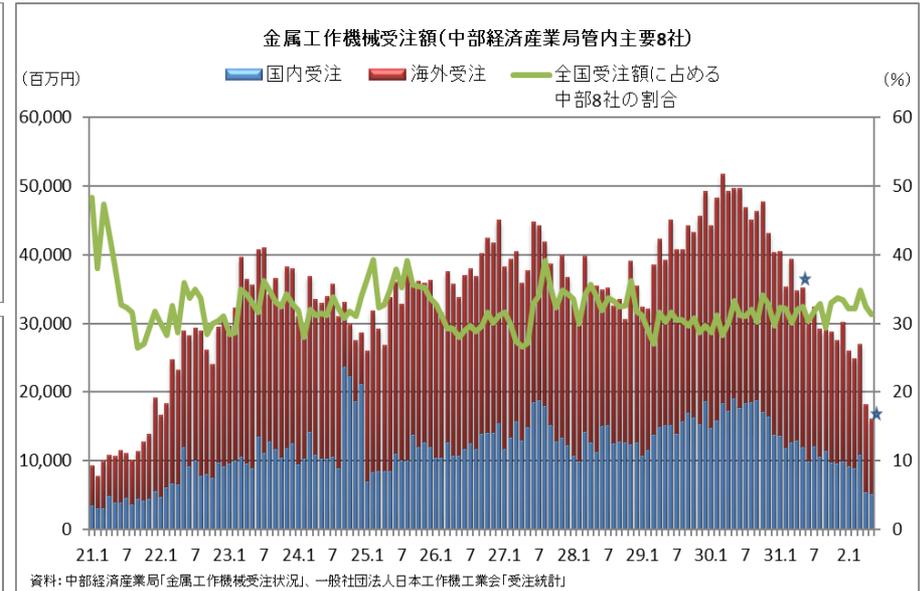
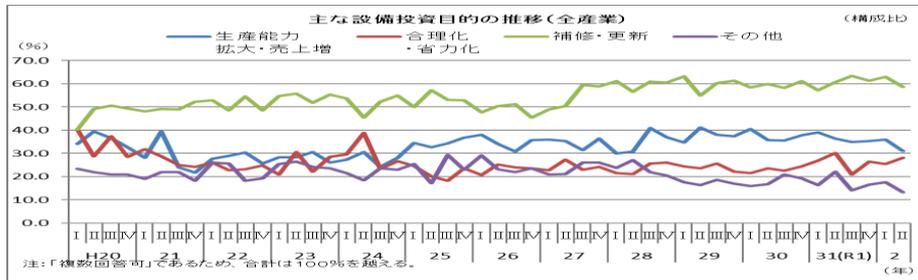
- 5月の輸出額(全国)は、4兆1,856億円の前年同月比▲28.3%と18ヶ月連続で減少となった。
- 5月の輸出額(名古屋税関内)は、8,221億円の前年同月比▲43.6%と減少し、10ヶ月連続で前年同月を下回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比4.1%増加した。その内、輸送機械は前年同月比▲6.3%減少したが、一般機械で同13.8%、電気機械で同11.7%増加した。アメリカ向けは、全体で前年同月比で▲61.4%と大幅に減少し、10ヶ月連続で前年を下回った。その内、輸送用機械で前年同月比▲68.6%、一般機械で同▲53.9%、電気機械で同▲53.6%減少した。



設備投資

○4-6月期の設備投資実施は前期比▲3.1ポイント低下、設備投資意欲DIは同▲28.2ポイント低下。設備投資実施の目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比▲4.9ポイント、「補修・更新」で同▲4.3ポイントと減少し、「合理化・省力化」は同2.7ポイントと上昇した。

○5月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲54.4%と19ヶ月連続で前年を下回った。内訳は国内受注では同▲56.8%と18ヶ月連続で前年を下回り、海外向けも同▲53.1%と19ヶ月連続で前年を下回った。



現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆設備投資は必要最低限に圧縮する予定。在宅勤務に関するインフラを整備している。(輸送用機械)
- ◆機械は導入予定だが、大きな建物を建設する予定はない。(非鉄金属)
- ◆今年度の投資額は昨年の1/3程度に留める。投資の大半は、老朽設備の更新が目的である。(はん用機械)
- ◆老朽化が進んでいるため、今年度に社屋等を建て替える。ものづくり補助金を活用し、機械も買い替える。(紙)
- ◆先行き不透明につき、大規模修繕は様子見する。(窯業)
- ◆夏に向け、冷房を3台程度導入しなければと考えている。(刃物)

製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

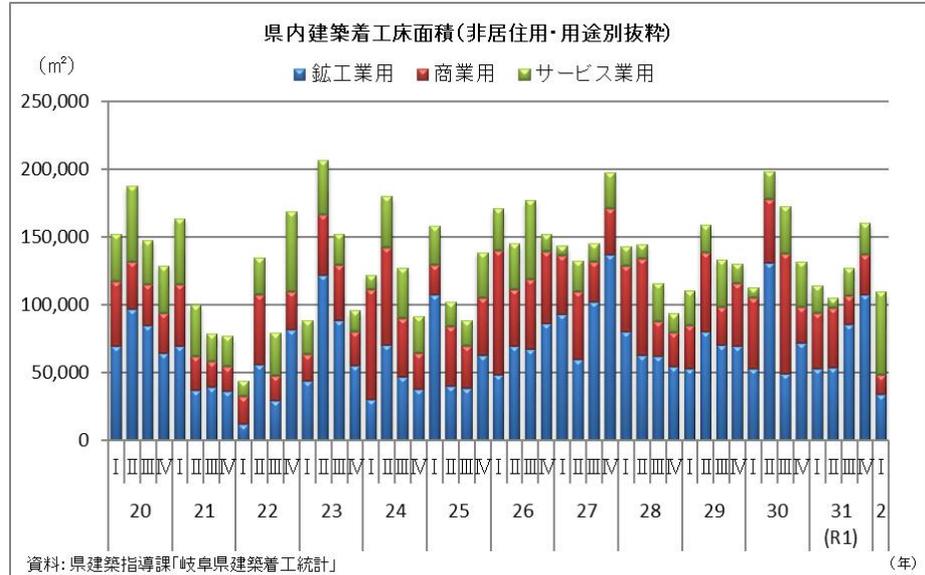
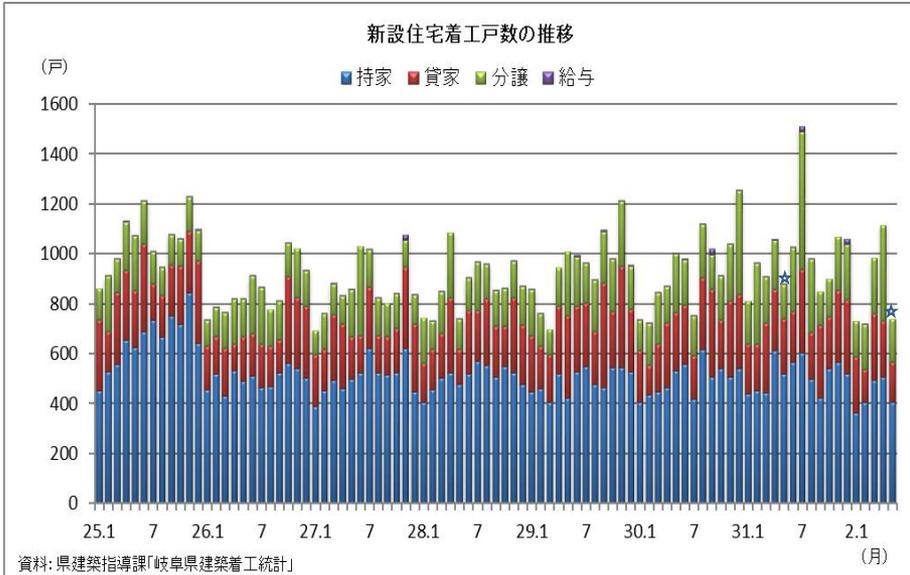
- ◆店舗流通が苦戦している中、通信販売向けの売上は好調であった。(食品製造)
- ◆客先への訪問と来訪者の受入については、「禁止」から「自粛」へ社内方針を変更した。引き続きWEB会議や電話会議への切替を推進していく。(輸送用機械)
- ◆客先で在庫を積み増す動きが一巡したため、当社の出荷量は減少した。(輸送用機械)
- ◆航空機関連で受注を獲得し、試作加工を完了していたが、新型コロナウイルスの影響もあり、量産開始が1年延期になった。(輸送用機械)
- ◆テレワークの導入を本社で行い、テレビ会議を積極的に取り入れている。7月からマスクの着用を必須とし、従業員に対して、マスクを支給している。(輸送用機械)
- ◆特に首都圏への移動を自粛しており、営業など正常な企業活動を制限されることの不自由さは現在においても感じられる。(輸送用機械)
- ◆5月25日に全国で緊急事態宣言が解除されたが、すぐに好転する動きはない。元の水準に戻るには数か月かかると思われる。(輸送用機械)
- ◆緊急事態宣言解除後は、営業活動を認めたが、必要時のみに留めており、積極的には行っていない。(非鉄金属)
- ◆韓国に協力企業があるが、6月になっても出張ができず、管理ができていない。(生産用機械)
- ◆自動車メーカーの減産による鉄スクラップの発生量の減少でスクラップの需要が高まり、品不足と価格の高騰が起きている。(生産用機械)
- ◆生産稼働率は、春先より更に悪化し、約60%となっている。週休3日制を実施している。(金属製品)
- ◆5月を底として、現在は3月比で90%の水準まで生産が回復した。生産調整については、取引先が複数あるため、大手のシフトに併せて金曜日を完休とするのは難しい。(プラスチック製品)
- ◆旅館・ホテル業との取引が多いので、直接打撃を受けた。和紙マスクや抗菌商材を開発し、売り上げを確保している。(紙)
- ◆売上は同年前月比で2割増加した。小売店の休業でマイナスの影響を受けたが、客先で海外調達を国内調達へ切り替える動きがみられ、会社全体の売上としては増加した。(紙)
- ◆4月以降の生産減に対して、雇用調整助成金で対応。8月頃からは業績回復により元に戻す予定。(プラスチック製品)
- ◆これまでは雇用調整助成金で凌いできた。今後も部分休業などでワーキングシェア等を続けながら業績回復を目指す(輸送用機械)

住宅・建築投資

○5月の住宅着工戸数は、前年同月比▲15.9%と前年同月を下回った。

○分譲で前年同月比25.2%増加したものの、貸家で同▲27.9%、持家で同▲21.7%減少した。

○1-3月期の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比208.0%と増加したものの、商業用で同▲65.0%、鉱工業用で同▲35.8%と減少したことから全体としては同▲3.8%と減少した。

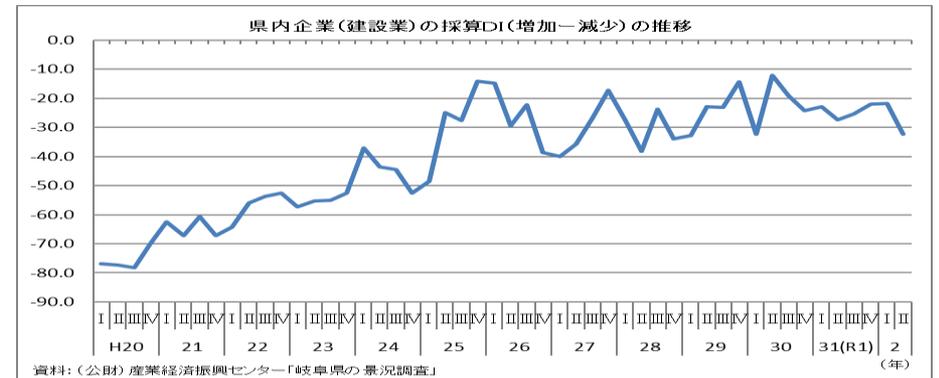
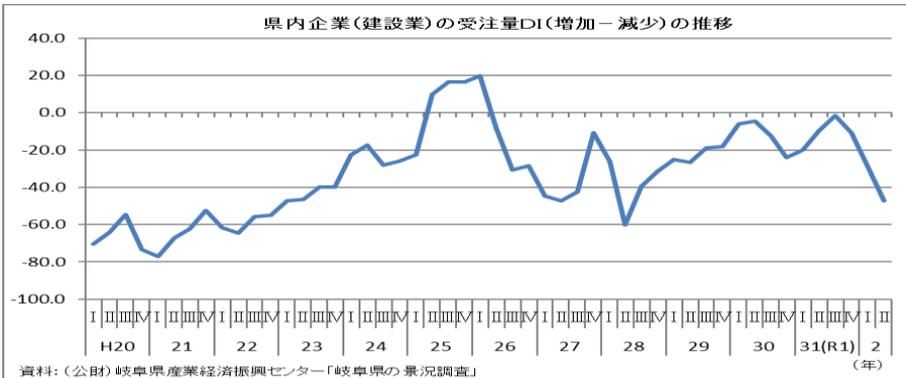
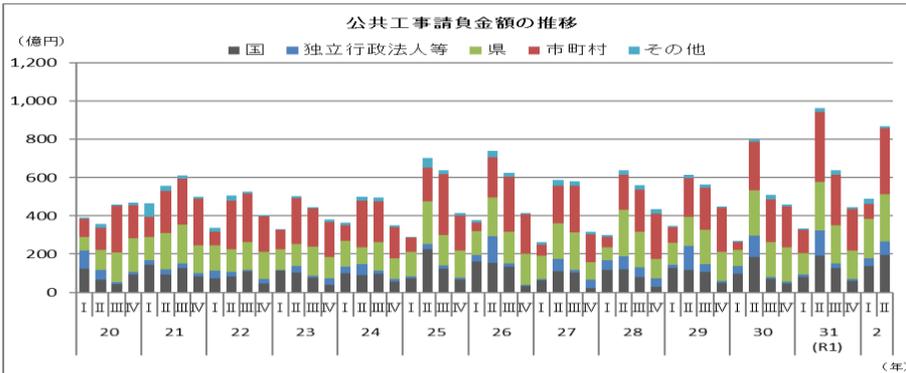


現場の動き

- ◆H30、R1年度と2年続けて暖冬であったため、年間出材量が大きく伸び、消費税増税前の駆け込み需要や東京オリ・パラ関連の特需に対して順調に対応してきた。R2年度はその反動で木材需要が落ち込むことが予想されていた中で、新型コロナウイルスによる影響が近隣地域でみられており、予断を許さない状況である。(森林組合)
- ◆新型コロナウイルスの影響で、顧客である建築業者が営業できていない状況のため、建築業者からの受注が減少し、今後の売上は30%の減少となる見通し。悪い月には50%程度減となることも想定している。(森林協同組合)
- ◆分譲関係で仕入れを止めていた事業者もあったが、需要が戻りつつある。(木材加工)
- ◆6月は、例年、住宅展示場への来場者数が少ない時期であるが、今年は例年の半数程度である。(建築)

公共工事

- 4－6月期の発注者別の公共工事請負金額は、国で前年同期比1.9%増加したものの、独立行政法人等で同▲47.2%、市町村で同▲6.2%減少するなど、全体で同▲9.9%減少した。
- 県内建設業の4－6月期の受注量DIは前期比▲18.1ポイント、同採算DIは同▲10.7ポイント低下した。



現場の動き

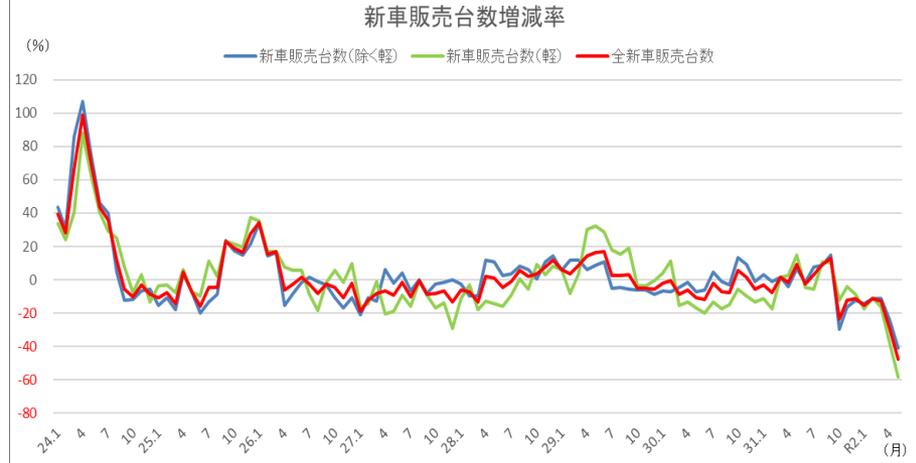
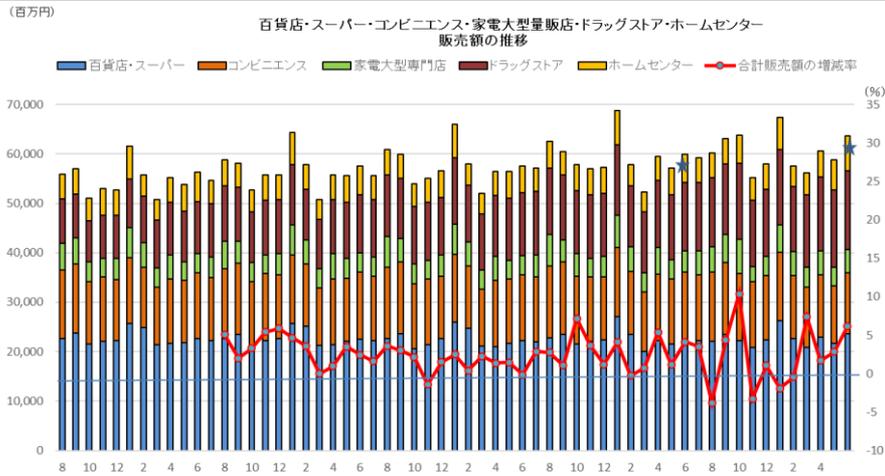
- ◆発注業務が、体感として1か月程度遅れているように感じる。見通しの通り発注されない可能性も感じている。
- ◆国土交通省発注の工事はフレックス工事が多く、工事の平準化への取組みが進んでいる。
- ◆6月後半から人材派遣会社から人材の売り込みが大幅に増えた。中途採用の問い合わせも増えている。

(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○5月はコンビニで前年同月比▲10.0%減少したものの、ホームセンターで同23.0%、ドラッグストアで同15.0%、家電大型専門店と同12.9%、百貨店・スーパーで同4.9%増加し、全体では同6.2%と4ヶ月連続で増加した。

○5月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲41.1%と8ヶ月連続で減少し、軽自動車も同▲58.2%と8ヶ月連続で減少した。
○合算では同▲47.4%と、8ヶ月連続で前年同月を下回った。



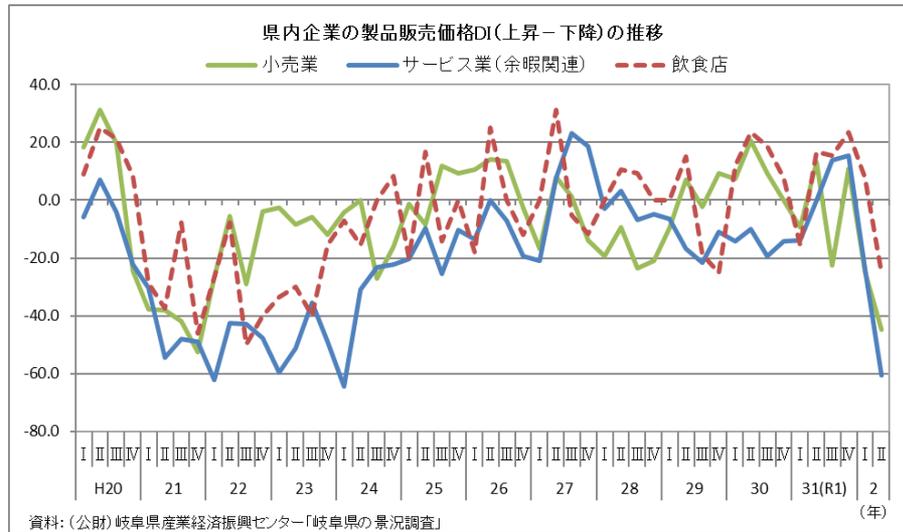
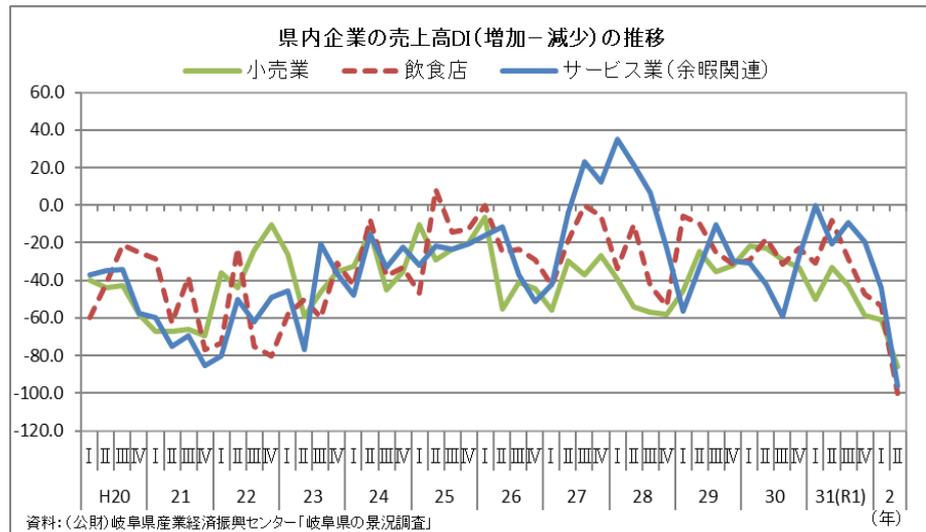
現場の動き

- ◆専門店の売上が前年同月比を上回っている。これまで閉店していた専門店が再開し、その反動で伸びたのだろう。だが、相変わらず飲食店は厳しい状況が続く。新型コロナウイルスの影響で一時期は求人数を減らしたが、もともと人手不足の業界であり、収束後は求人数を増やす予定。(岐阜市内大型商業施設)
- ◆緊急事態宣言解除後は食品・衣料・生活用品、すべて一気に好調となった。客数は前年を超える日が少しずつ出てくるようになったくらいだが、まとめ買いが非常に増えている。(大垣市内大型商業施設)
- ◆新型コロナウイルスの影響で業況が悪くなった地元業者を応援するため、地産地消を推進している。鮎は岐阜県産より和歌山県産が安い、岐阜県産でも売れている。飛騨牛も値段が高くても安定して売れている。(岐阜市内スーパー)
- ◆専門店の営業再開により来店客が回復傾向。(各務原市内大型商業施設)
- ◆前年を大幅に上回っている。先月までの売れ筋商品(調理器具等)は在庫不足となっていて、お客様の希望される商品がないこともある。(岐阜市内家電量販店)

個人消費(流通・小売)－2

○4－6月期の売上高DIは、サービス(余暇関連)では前期比▲52.4ポイント、飲食店で同▲46.2ポイント、小売業で同▲25.1低下した。

○同じく販売価格DIは、サービス業(余暇関連)で前期比▲36.7ポイント、飲食店で同▲32.7ポイント、小売業で同▲20.0ポイント低下した。



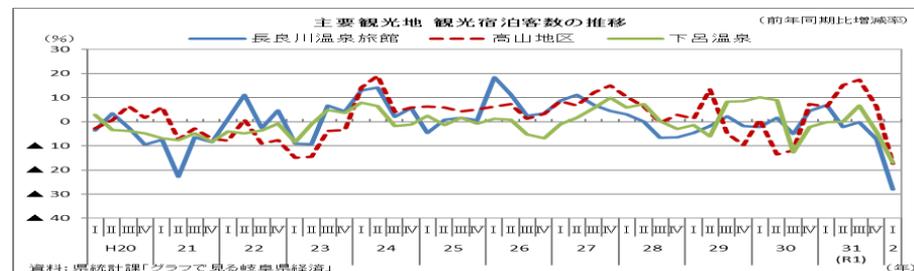
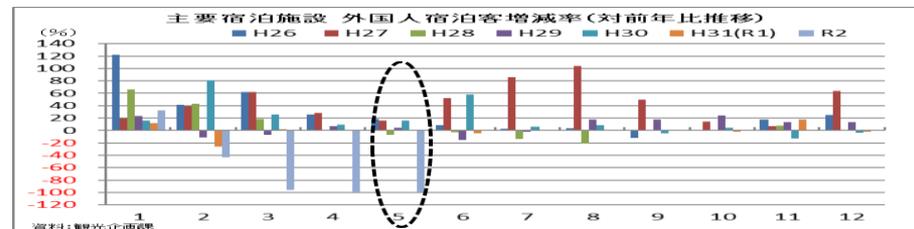
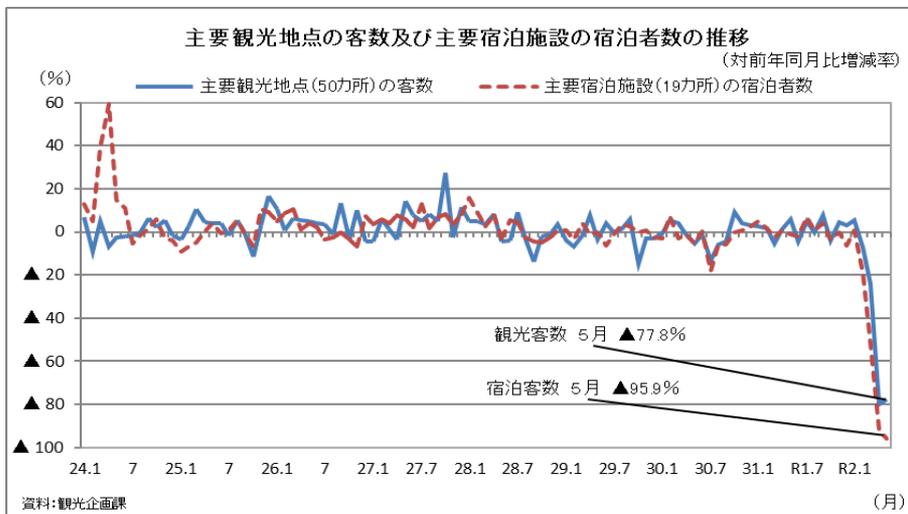
現場の動き

- ◆菓子店の売上は前年同月比▲20%。飲食店は同▲40%。ブティックでは、自粛からの反動や定額給付金の支給、気温の上昇を要因として、前年同月と同水準まで売上が回復した店もあった。商店街では、引き続き消毒用アルコールを数か所設置し、安全対策をとりながら、イベントやバーゲンの再開を目指している。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆日用品・雑貨店の売上は前年同月比▲20%。定額給付金支給の影響か、高額商品の購入が数件あった。和菓子店は同▲5%程度。売上は落ち込んでいたが、6月中旬以降は大幅に回復し、前年を上回るようになっている。(大垣市商店街)
- ◆家電販売店の売上は前年同月比18%の増。他店の廃業に伴い、当店から購入してくださるお客様が見受けられる。大型量販店より安心してつきあえる地域の電気屋に回帰しつつあることを実感する。(高山市商店街)
- ◆飲食店の売上は前年同月比▲20%程度。回復傾向にはあるが、宴会は少なく、本来のにぎわいには戻っていない。キャッシュレス決済が徐々に増えてきている。(多治見市商店街)

観光

○主要観光地における5月の観光客数は、前年同月比▲77.8%の減少と4ヶ月連続で前年同月を下回った。主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同月比▲95.9%と大幅に減少し、4ヶ月連続で前年同月を下回った。

○5月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比▲100.0%と大幅に減少し、4ヶ月連続で前年同月を下回った。

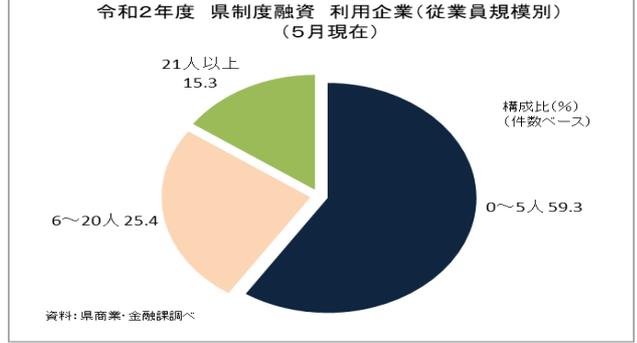
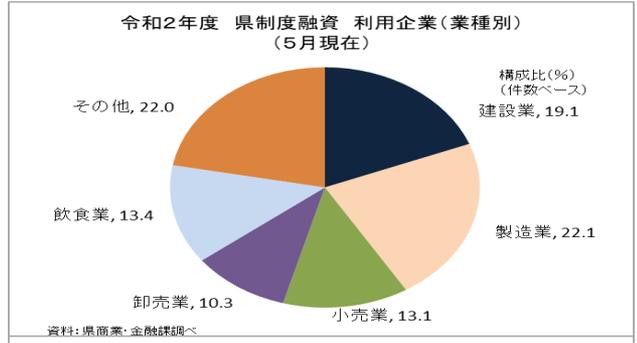
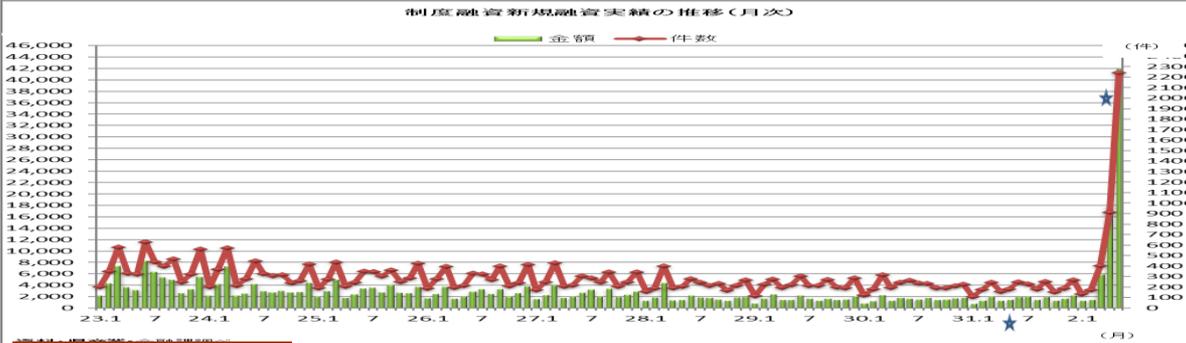
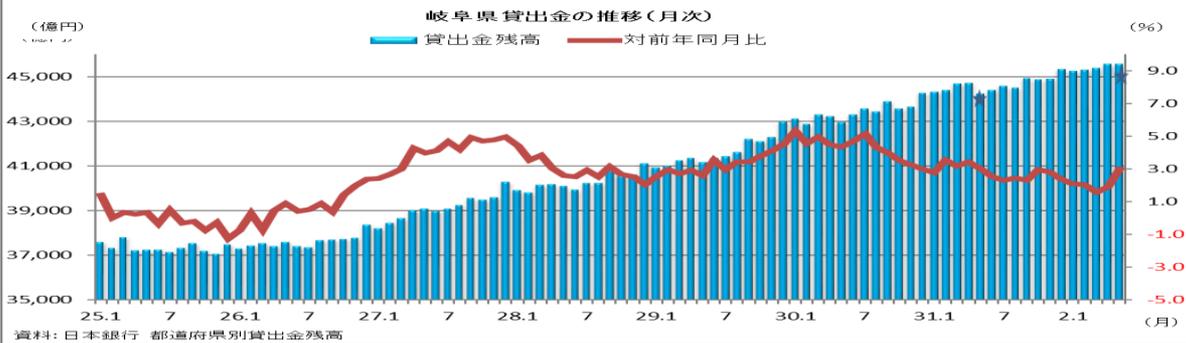


現場の動き

- ◆5月は休業をした。(岐阜市内、郡上市内、恵那市内、高山市内、下呂市内の宿泊施設)
- ◆団体の宿泊は戻ってきていないが、個人の宿泊は徐々に戻りつつある。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆OTA(インターネットによる予約)は少しずつではあるが、回復傾向にある。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆今後、台湾や東南アジアからの誘客を進めたい。(岐阜市内、郡上市内、高山市内の宿泊施設)
- ◆雇用調整助成金等を活用して1名もリストラせずに行きたい。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆新規採用は考えていない。(岐阜市内、郡上市内の宿泊施設)
- ◆契約社員については、更新期限までとする予定の事業者もあると聞いている(岐阜市内の観光組合)

資金繰り

- 5月の岐阜県貸出金残高は、4兆5,600億円で前年同月比3.0%とプラス基調が続く。
- 5月の制度融資実績は、金額が41,921百万円で前年同月比2,741.2%と大幅に増加した。件数は2,240件で同1,144.4%と大幅に増加した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の59.3%を占めている。

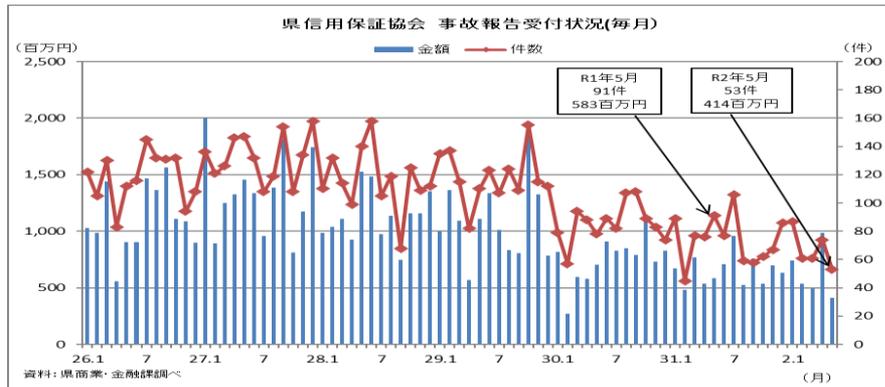
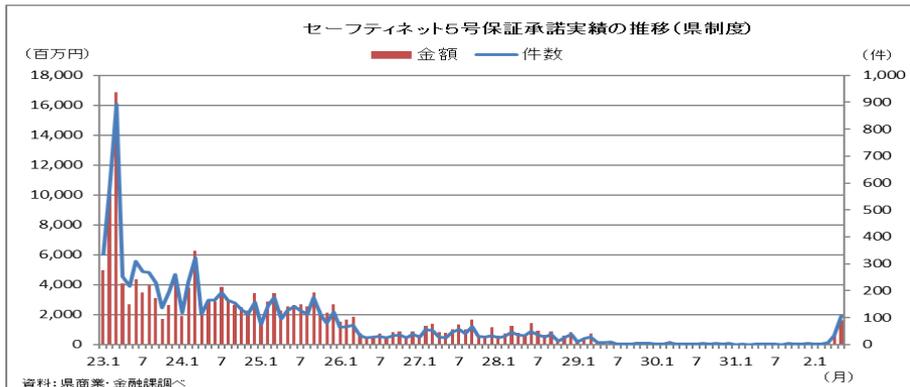
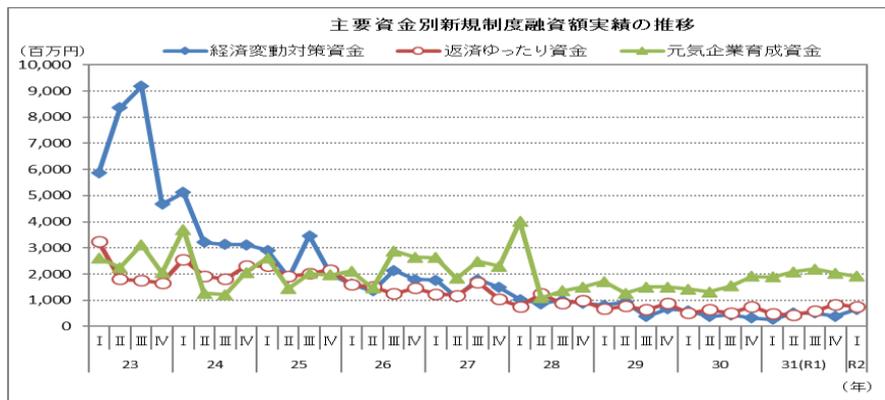
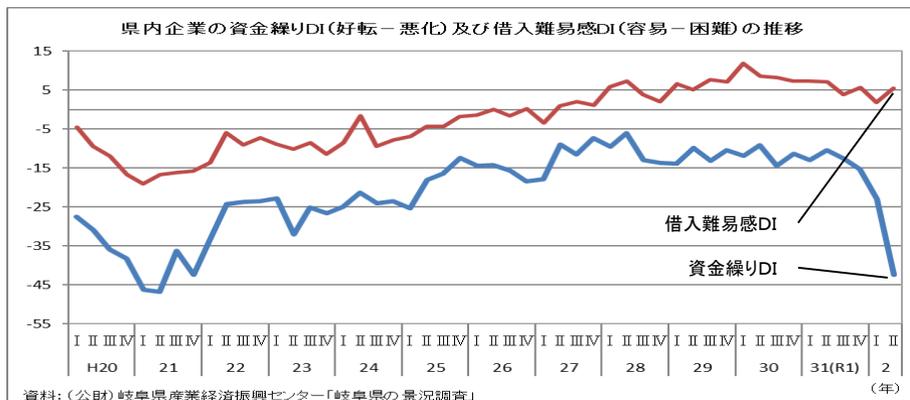


現場の動き

- ◆ 実質無利子・無担保融資を中心に、融資の件数、金額は5月に比べて増加している。一巡すれば融資の申し込みも落ち着くと思うが、これから資金繰りが厳しくなる企業もあると思われる。
- ◆ 実質無利子・無担保融資は上限が4,000万円のため、不足分を補うためにプロパー融資の申込み残高も伸びている。
- ◆ 設備投資が全くないわけではないが、融資の9割以上が運転資金であり、設備投資目的は少ない。
- ◆ 飲食業など早くから影響が出ていたところでは回復傾向にある話も聞かすが、影響が出るのが遅かった製造業や建設業で、ここ最近売上に影響が出ているなど、業種によってタイムラグがある。(以上、金融)

資金繰り-2

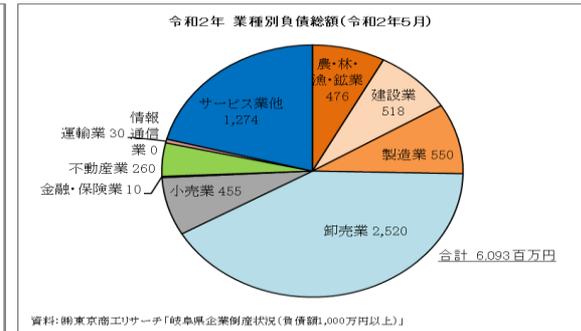
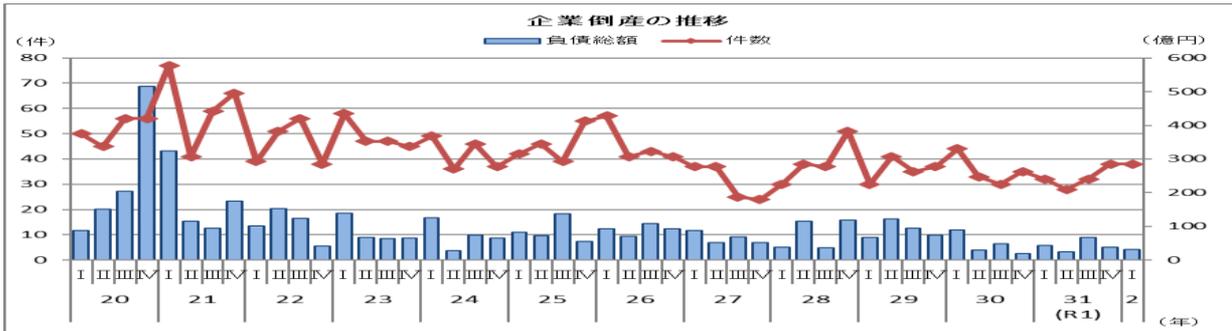
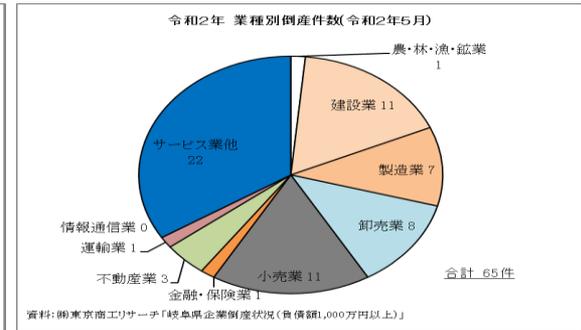
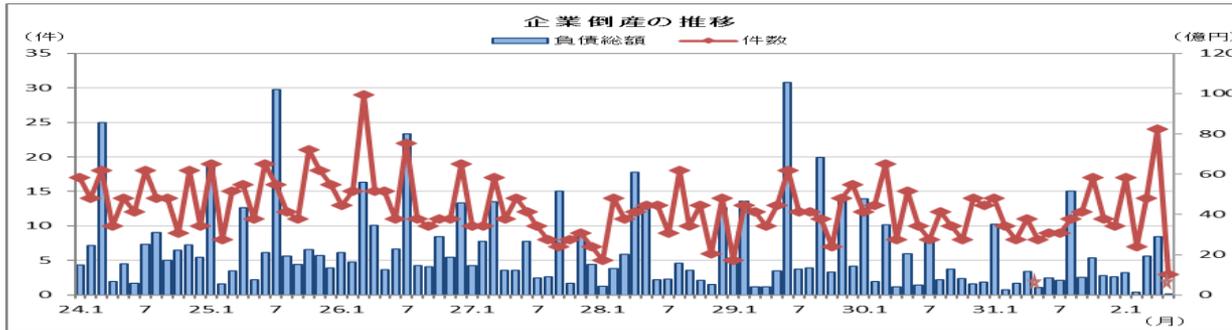
- 4-6月期の資金繰りDIは▲42.4で、前期比▲19.4ポイント悪化した。同借入難易感DIは5.4で、同3.6ポイント改善した。
- 1-3月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比144.6%と4期連続で増加、返済ゆったり資金で同57.7%と3期連続で増加、元気企業育成資金で同1.2%と8期連続で増加となった。
- 5月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が105件で前年同月比104件増加、金額は1,598百万円で同2,563.7%と7ヶ月連続で増加した。
- 5月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は53件で前年同月比▲41.8%と減少し、金額も414百万円で同▲29.0%と減少した。



倒産

○5月単月の倒産件数は前月比▲21件減少の3件、負債総額は前月比▲2,823百万円減少の63百万円となった。

○1月から5月までの累計倒産件数は65件となり、前年同期の51件から14件増加。累計負債総額は6,093百万円となり、前年同期の5,868百万円から225百万円増加で推移した。

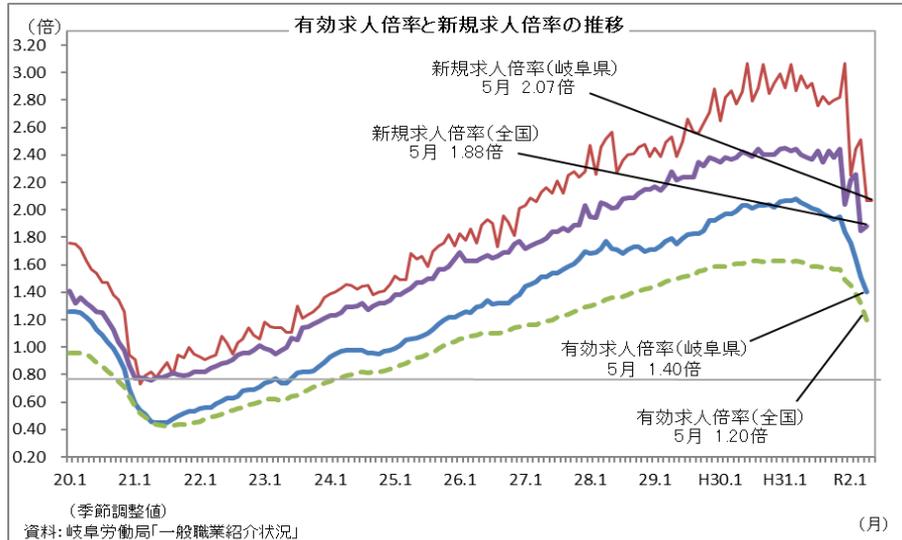


専門機関の分析(東京商工リサーチ)

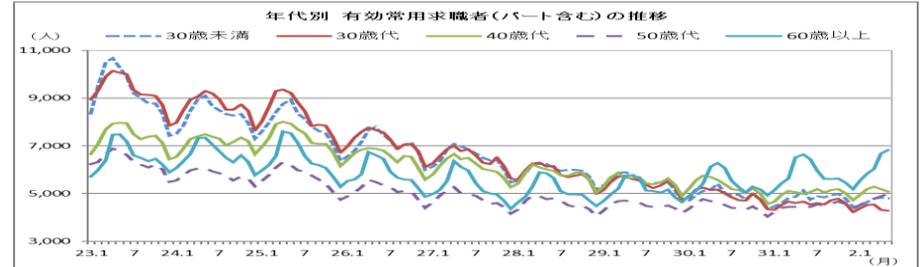
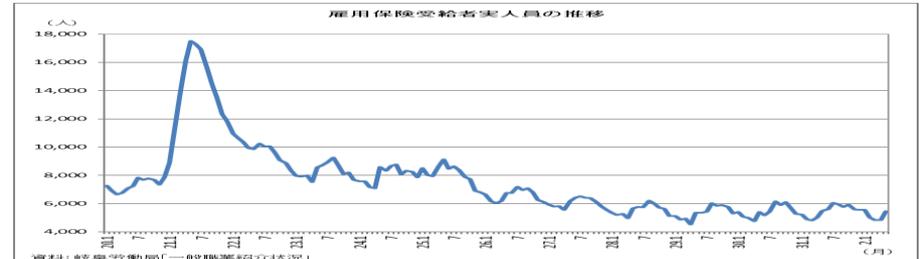
- ◆令和2年度4月度の倒産件数は明らかな増加が見られたが、当月は大幅に減少した。全国的に見られた現象であるが、経済が回復したわけではない。緊急事態宣言に伴い裁判所や弁護士事務所の業務が縮小したことで破産などの法的手続きが滞ったことが理由となる。しかし、実態としては経営が行き詰った企業は引き続き多く、裁判所や弁護士事務所の業務再開に伴って、倒産件数は急激に増加する可能性がある。
- ◆内外需要の急激な低下から各企業の資金繰りは圧迫されており、破綻は観光関連、飲食業といったサービス業から小売業、製造業へと広がりを見せており、影響拡大が懸念される。

雇用

- 5月の有効求人倍率は1.40倍と前月比▲0.11ポイントと低下。「1.4倍」台は60ヶ月ぶりの水準。
- 5月の新規求人倍率は2.07倍と前月と同水準で推移。



- 5月の雇用保険受給者人員は、前月比13.3%と増加した。
- 年代別有効常用求職者(パート含む)は、30代以下の年代のみで前年同月比減少した。



現場の動き

- ◆ネット公開求人においては20～30代の非正社員への男性応募者が急増した。特に自動車関連業界からの応募者が目立った。一方、検品検査軽作業等、女性向けの求人に対する応募はほとんどなく、女性が全く採れない状況が続いている。(食料品製造)
- ◆現時点では若干の人員超過を感じるが、7月以降に見込まれる回復を考えれば必要な体制であると判断している。雇用調整助成金が拡充されたことにより、生産調整しつつも雇用を守ることができた。(輸送用機械)
- ◆求人は学卒を含め、積極的に行っているが、反応は低調である。(生産用機械)
- ◆新型コロナウイルスの影響で新入社員の採用活動を止めている。(プラスチック製品)
- ◆欠員補充を目的とした採用活動を実施している。(プラスチック製品)

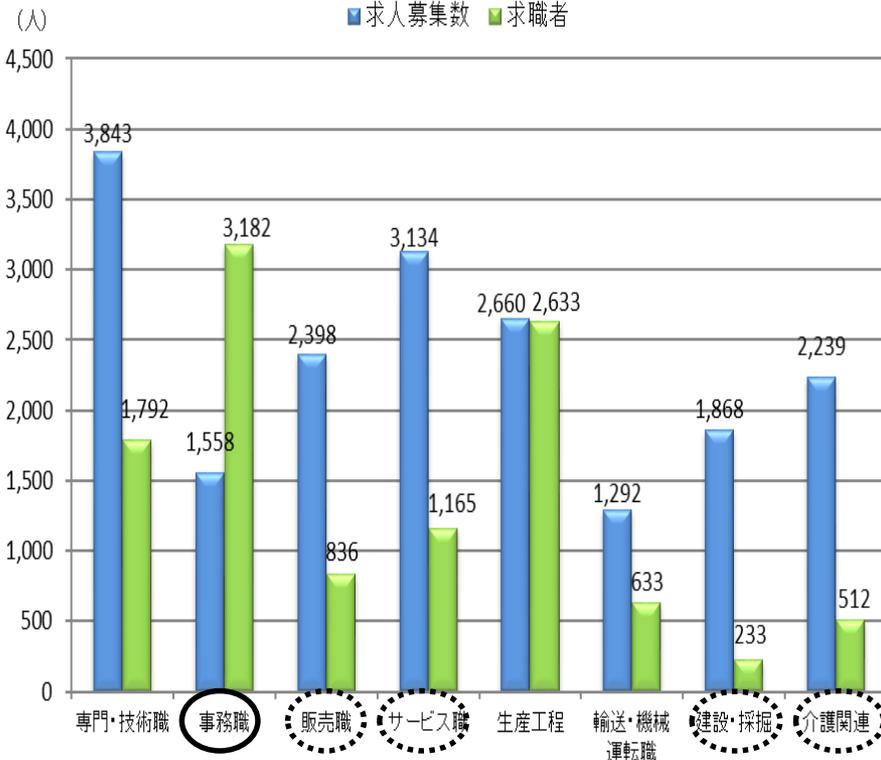
雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で8.0倍、介護関連で4.4倍、販売職で2.9倍、サービス職で2.7倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.5倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

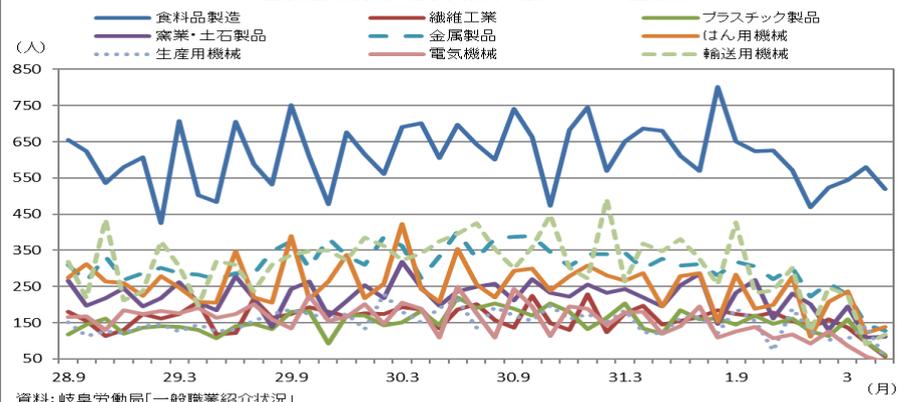
○5月の主要産業新規求人数は、輸送用機械で前年同月比▲66.4%、電気機械で同▲65.5%、繊維工業で同▲61.1%、金属製品で同▲60.6%、生産用機械で同▲58.0%、プラスチック製品で同▲48.3%、窯業・土石製品で同▲42.6%、はん用機械で同▲29.2%など、全ての製造業で減少した。

5月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用)

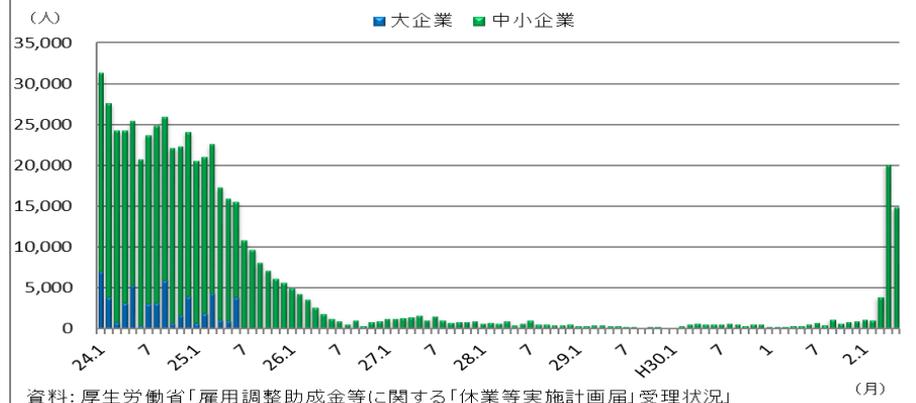


資料: 岐阜労働局「求人・求職バランスシート」

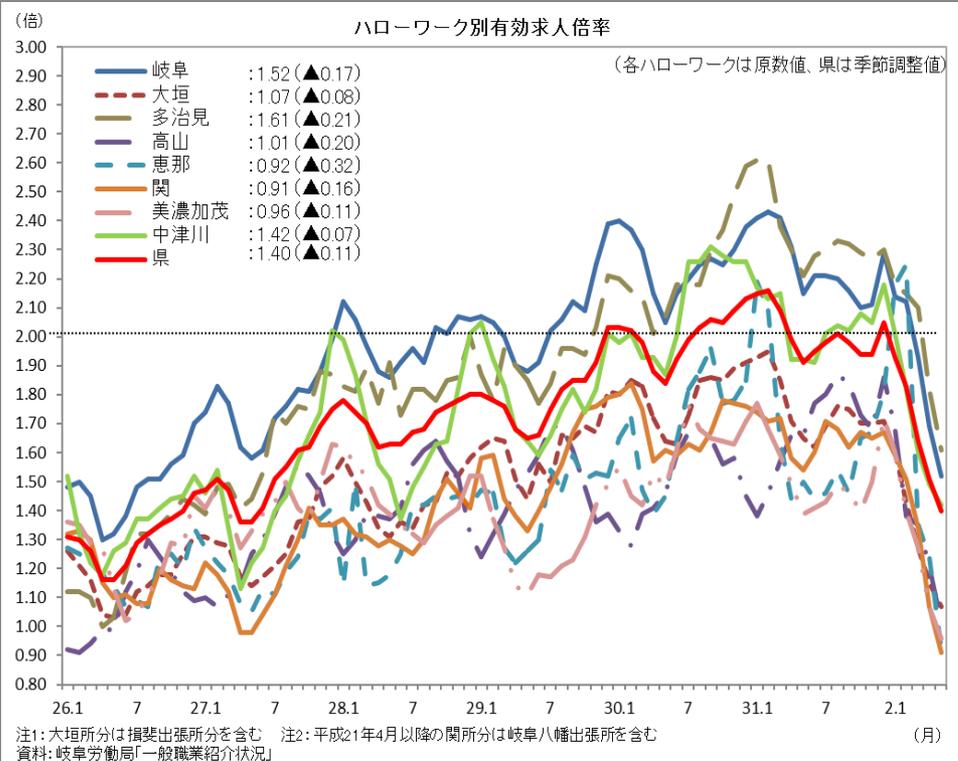
主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



雇用調整助成金の申請状況



雇用(地域別)



○5月のハローワーク別有効求人倍率は、全ての地域で前月比で低下した。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は増加、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は増加、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク中津川>

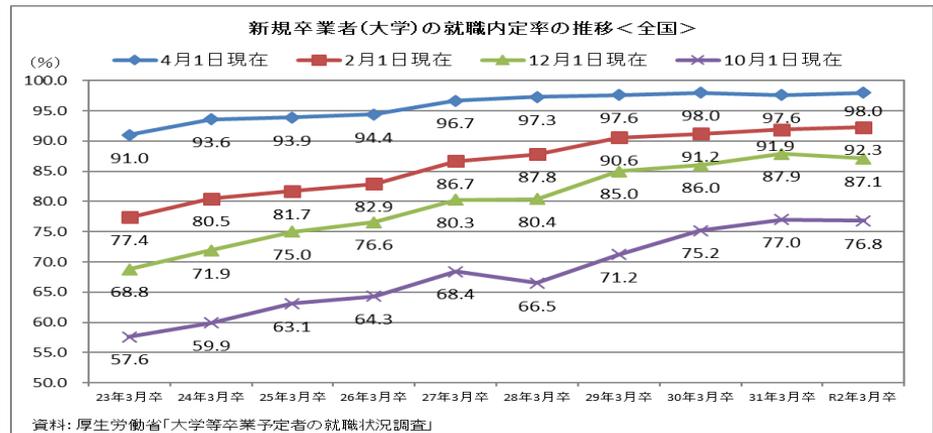
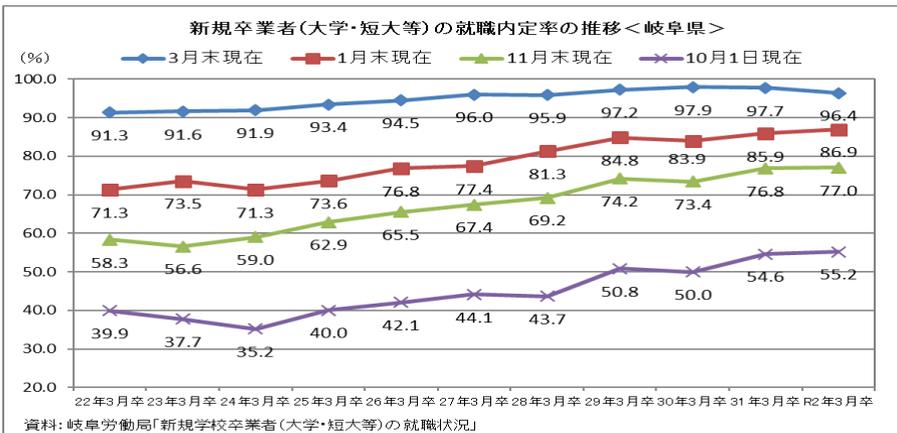
- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<窓口の様子>※前月比

- ◆恵那、関、美濃加茂、中津川で混雑傾向が見られた。

雇用(大学・短大新卒者の就職)

- 岐阜県の令和2年3月末時点の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)の就職内定率は、96.4%であり、前年同時点と比べ▲1.3ポイント低下した。
- 全国の令和2年4月1日現在の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)内定率は98.0%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇した。



現場の動き(2021卒の動きなど)

<大学へのヒアリング>

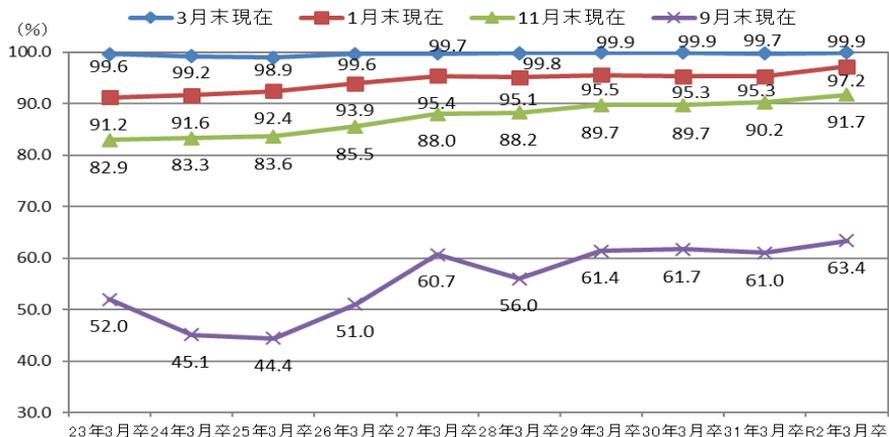
- ◆キャリアセンターは6月4日より開室。学生向けの就職支援ガイダンスはオンラインで行っているが、集客がよくない。企業からの求人が減っているという感じはまだない。
- ◆新型コロナウイルスの影響を受けている観光、航空、アパレルなどの業界への就職を希望する学生も多い。最終選考で落ちる、という相談がちらほらあり、企業の業績が選考にも影響を与えていると思われる。
- ◆全体の状況は把握できていないが、感覚としては、昨年より内々定の数字は下がっているのではないと思われる。(以上、岐阜県内大学)
- ◆3年生に向けてはオンラインでガイダンスを実施。危機感を感じている学生が多い一方で、積極的にインターンシップに申し込んで動いている学生と、慎重になって動いていない学生の差が大きい。
- ◆学生に電話で就活の状況を個別確認を行っている。就活が中断してしまっている学生や、一人で抱え込んでしまっている学生が多く、多くの学生が不安を抱えている。企業からの求人についても少し減っている印象を受ける。インターンシップについては、公務員希望の学生が増えている。(以上、愛知県内大学)

雇用(高校新卒者の就職)

○岐阜県の令和2年3月末時点の高校卒業者(令和2年3月卒業)就職内定率は99.9%であり、前年同時点と比べ0.2ポイント上昇した。

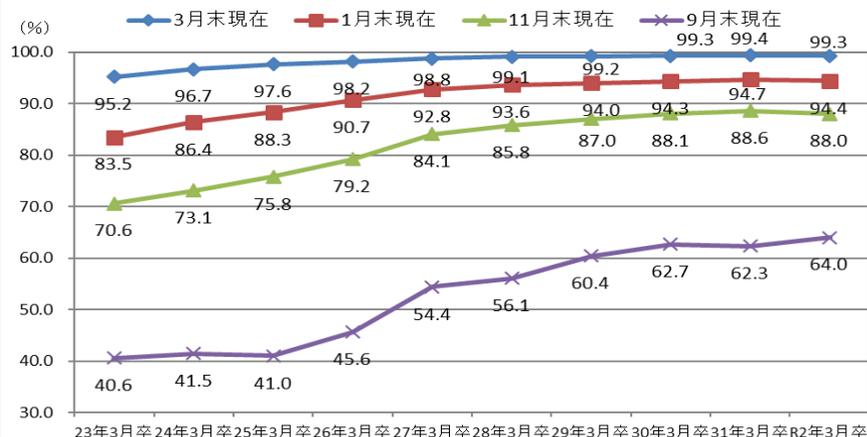
○全国の令和2年3月末時点の高校卒業者(令和2年3月卒業)就職内定率は99.3%であり、前年同時点と比べ▲0.1ポイントと低下した。

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<岐阜県>



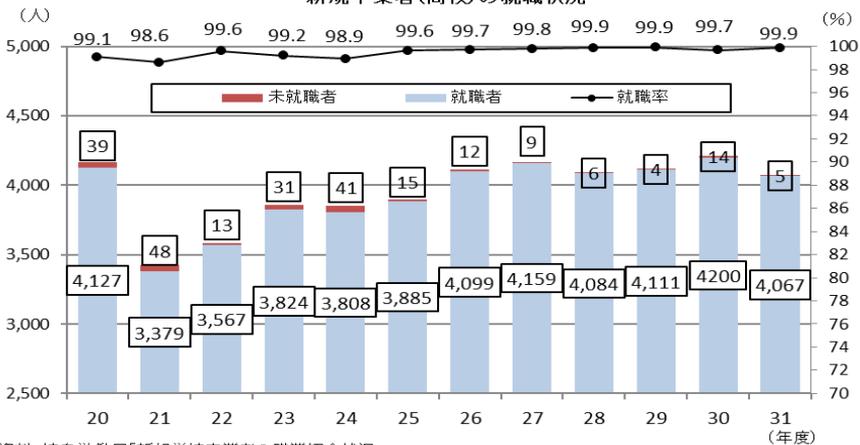
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<全国>



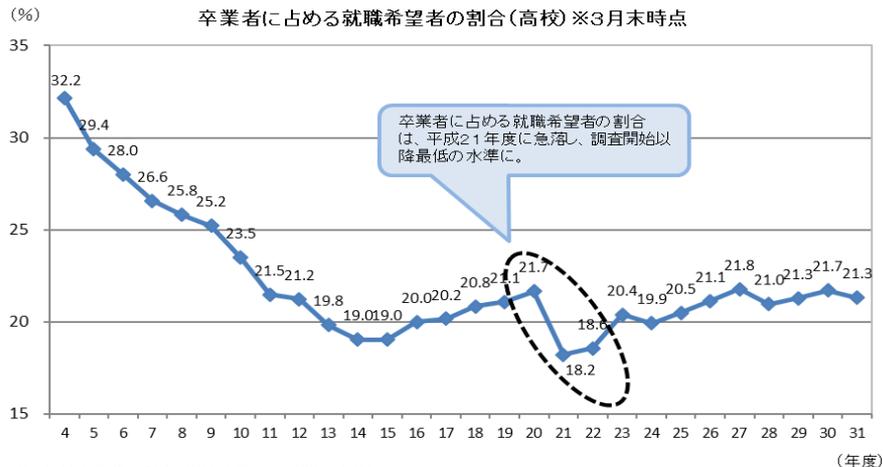
資料: 厚生労働省「高校・中学新卒者の求人・求職・内定状況(高校・中学新卒者)」

新規卒業者(高校)の就職状況



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

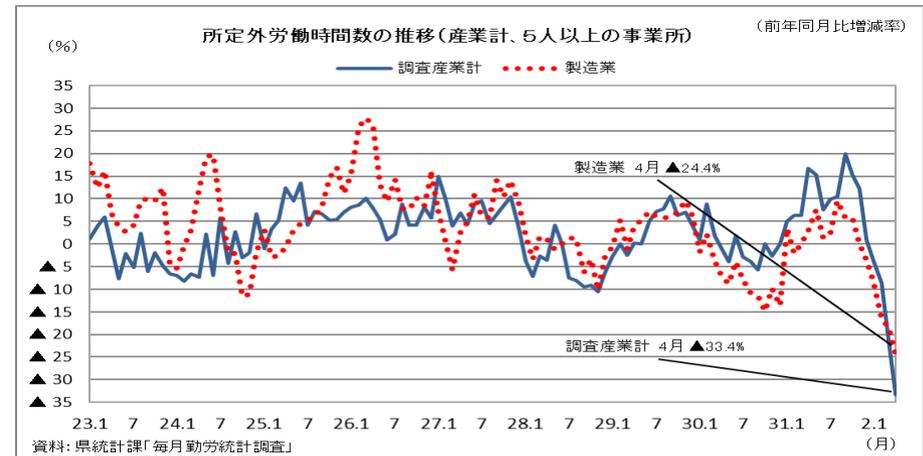
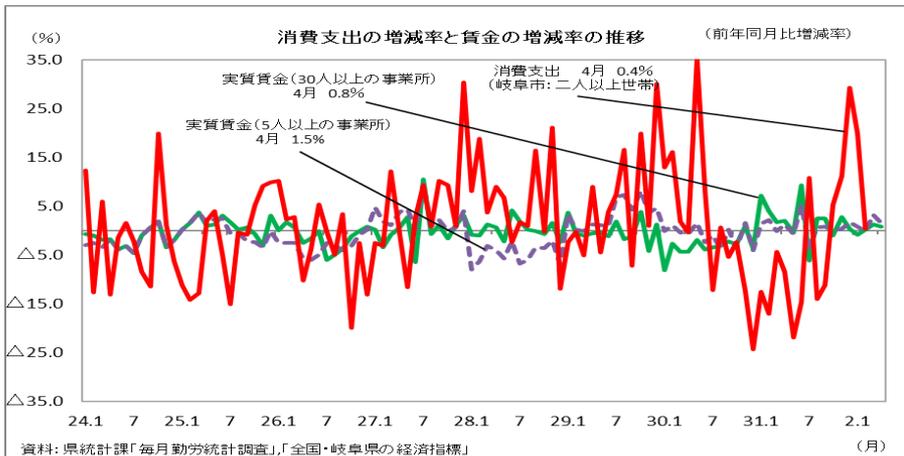
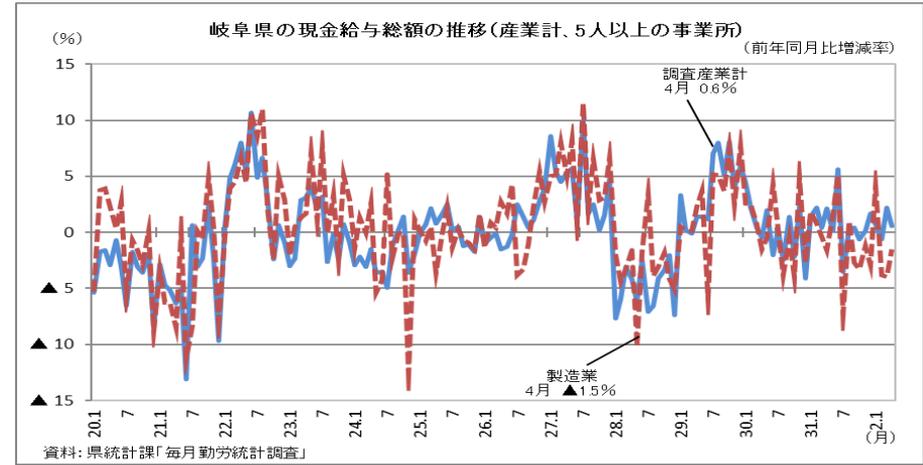
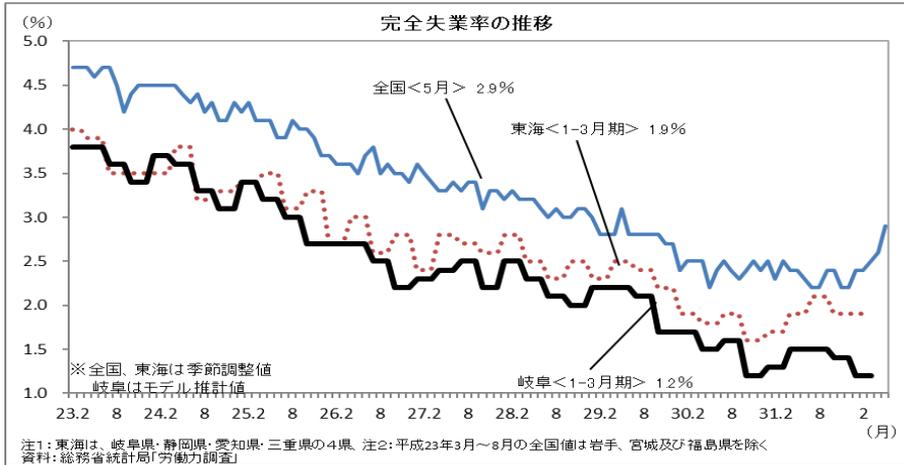
卒業者に占める就職希望者の割合(高校)※3月末時点



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

雇 用(完全失業率等)

- 全国の5月の完全失業率は2.9%で前月比0.3ポイント上昇。岐阜県の1-3月期の平均は1.2%で前期比▲0.2ポイントと減少。
- 4月の岐阜県現金給与総額は、全産業で前年同月比0.6%増加、製造業では同▲1.5%と減少。
- 4月の実質賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比1.5%増加、30人以上の事業所は同0.8%増加。消費支出については同0.4%と5ヶ月連続で増加した。
- 4月の所定外労働時間数は前年同月比▲33.4%と減少した。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、4月の鉱工業生産指数では、前月に続き化学工業が増加したものの、多くの産業では低下となった。ヒアリングにおいては、工場稼働率は徐々に回復傾向にあるものの、もとの水準に戻るには時間を要するとの声が聞かれた。
- 地場産業は、4月の鉱工業生産指数では、家具で前月比増加したが、その他の産業で低下となった。ヒアリングにおいては、一般消費者向けの商品は回復の兆しがあるものの、業務用の商品は動きが鈍いとの声があった。
- 設備投資は、5月の金属工作機械受注額について、前年同月を大きく下回った。前年同月を下回ったのは、国内向けは18ヶ月連続、海外向けは19ヶ月連続となった。ヒアリングにおいては、設備投資は老朽設備の更新など、必要最低限に留めるとの声が多くあった。
- 個人消費は、小売店の5月の販売額について、コンビニでは落ち込みが続いたが、ホームセンターやドラッグストア等の販売が増加し、全体では前年同月比で4ヶ月連続の増加となった。ヒアリングにおいては、定額給付金の支給後に消費が増加したとの声が聞かれた。
- 観光は、前年と比較し、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による休業により観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。インバウンドは、ほぼゼロとなった。ヒアリングにおいては、団体の宿泊は戻ってきていないが、個人の宿泊は徐々に戻りつつあるとの声があった。
- 企業の資金繰りは、5月の制度融資実績で、前月に続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からは、飲食業など早くから影響が出ていたところでは回復傾向にある話も聞かすが、影響が出るのが遅かった製造業や建設業で、ここ最近売上に影響が出ているなど、業種によってタイムラグがあるとの声が聞かれた。
- 雇用面は、5月の有効求人倍率は、1.40倍と60ヶ月ぶりに1.4倍台の水準にまで低下した。ヒアリングにおいて、雇用調整助成金や休業などでワークシェアしているとの声が聞かれたが、一部では派遣労働者の契約更新を見合わせるとの声もあった。